

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172600591		
法人名	社会福祉法人 樹心会		
事業所名	グループホーム揖斐川げんき村(木曾の家)		
所在地	岐阜県揖斐郡揖斐川町志津山378番地		
自己評価作成日	平成23年1月7日	評価結果市町村受理日	平成23年2月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172600591&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成23年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者同士で協力をしながら、掃除、洗濯と日常生活全般に役割を持ち取り組んでいます。生活に退屈しないよう、職員が個々に考え、レク他を実施しています。また、外出も出来るだけ設け、社会との接点が途切れないように努力しています。他にも、散歩がてら買い物にでかけたリ、喫茶店にいたり取り組んでいます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設から9年を迎えたこのホームは、利用者の要望や行きたい場所への外出を実現している。日本海での海釣り体験や京都への日帰り旅行等、利用者の笑顔を増やすために、毎年場所を変えてミニ旅行を計画的に行っている。協力医と24時間体制で連携をとり、常に本人の体調が維持できるよう配慮を行っている。地域との交流も運営推進会議を活用し、夏祭りの開催や地域の福祉フェア等への参加により、ホームの存在が理解され、貴重な社会資源となっている。職員のチームワークもよく、利用者に寄り添った本人本位の支援を行っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(木曾の家)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着に向けて、日頃の挨拶を大切に、夏祭りや餅つき大会を催し、理解を深めており、地域に打ち解けるよう、生活を心がけている。	地域の人々との交流を大切に「人として尊厳される」を理念としている。理念は、会議の度に意義を理解しながら確認・共有している。地域と深く関わりながら尊厳のある生活を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際は声掛けはもちろん、時には野菜等持っただけたりと、少しずつ地域との関わりが持てている。行事毎にも常に声を掛け、参加を呼びかけている。	地域の一員として、清掃活動や地域行事に参加している。近隣高校生による福祉ボランティアや、中学生の福祉体験を受け入れている。近所の人とは、親しく挨拶を交わし、野菜の差し入れは、日常的にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事ごと等の際には、積極的に参加していただける様、努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス内容等・各取り組みについて報告し、意見を伺い質の向上に努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、区長・老人会長・民生委員・住民代表者等の参加を得て行われている。ホームの現状報告や活動報告を行い、ホーム理解を中心にした会議となっている。	会議は、広く意見を討議する場として、議題の設定や運営方法の再構成が望まれる。また、毎回、行政関係者の参加が得られるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地元で行われる福祉健康フェアに進んで参加している。	行政が毎月主催する各福祉事業所が集まるケア会議に参加し、事業所間の情報交換を行っている。さらに、運営上の課題を相談したり、制度上の助言を得るなど連絡を取りあっている。	行政担当者には、事業所の実態と地域密着のあり方を積極的に伝えと共、現場の実情を理解してもらい、より緊密な協力関係を築くよう期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置し職員に働きかけている。正しく理解してはいるが、入居者の状況に応じ家族の同意のもとやもえず拘束することもある。	全職員で、身体拘束の研修で、拘束禁止の意義を学び実践している。玄関の施錠はどのユニットも行わず、出ていく人には職員が寄り添ってついて行く支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム会議、研修会、又自己学習の中で学び施設の中で虐待行為はあってはならないこととして、1人1人が認識している。特に入浴時等、観察の場として活用している。		

岐阜県 グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見制度・地域権利擁護事業について必要な人がいない為、話し合いをする機会はありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書を読んでいただき、十分に説明を行い同時に、不安・疑問も伺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の訴えには、常に耳を傾け、苦情・不満があった場合には、すぐに取り上げ、解決に努めている。家族の面会時に入居者の状況や体調を説明し意見を聞いている。金銭出納帳は、家族の押印により確認して頂いている。げんき村便りにも入居者の状況も書き添え安心感を得られていると考える。	家族の訪問時に聞いたり、家族アンケートもとり、意見・要望を把握している。体調の報告、金銭管理、外出を増やす要望など意見がある。意見・要望は、全体会議で話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回職員・ホーム会議でミーティングを行い意見を聞く機会を設けている。	ユニット会議であがった意見は、全体の職員会議やホーム長会議で話し合い、ホームの運営やケアに反映させている。職員の意見・提案は、検討を重ねた結果、海釣り体験を実現させている。管理者は、職員が気持ち良く日々の支援ができるよう、職員との面談を柔軟に行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務調整を実施し、入居者に特変があれば、すぐに駆けつけられる体制をとっている。行事毎など職員数が必要な場合には、柔軟に対応している。行事やイベントは、3ユニット同時に行い、また、他のホームが手薄の時には手伝いに行くなどしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成の取り組みに関しては、研修参加を積極的に呼びかけ、勤務の交代などの配慮をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、他の事業所との相互見学を行っている。ホームの職員研修にも場所の提供をしており、色々な意見や経験を通し、質の向上を目指す取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	意思表示がしっかりし伝えられない方には、行動・表情をみて判断できるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望の見学の際に、話を伺い家族の大変さなどを理解しながら話を伺ったりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の話し合いで、要望を見極め、職員の支援または、他のサービス機関の支援を受けられるよう支援する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話などのコミュニケーションを通して、良い関係作りが出来ている。又、共同作業を通し、支えあう関係を蜜にする努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何にかあった時には、家族に連絡をとり、家族と協力しながら介護支援の話を深めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人・家族に見学に来ていただいている。入所時の不安の程度を少しでもなくするよう、本人を良く観察しながら、馴染めるような支援を努めている。	利用者の友人や知人がホームを訪れた際には、再度足を運んでもらえるよう、さりげなく働きかけている。訪問のない人の心を配慮したり、入居することで利用者と家族との距離が広がらないよう、家族の絆を重要視し、常に、家族へ様々な連絡と依頼をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう声掛けをしたり、共有スペースで過ごしていただき、掃除等日常生活全般に役割を分担し支えあいながら生活している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者家族の方が時折顔を出してくださる事があり、また、行事实施の際には、お誘いの文章を発送し、付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族の希望・要望を把握し、職員は入居者の立場になって考えたり、感じたりしている。また、家族会の場にて、話し合いをするよう努めている。	担当職員が、日々のケアの中から本人の意向や要望を把握し、個別記録に記載している。本人の趣味や好きなことをホームの暮しに活かしながら、本人の思いに添い、生き生きと暮らせるよう、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントで以前の生活歴を入居後の生活作りに活かし、その人らしい生活が送れるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の現状を記録に残し、情報伝達に努めると共に、会議を通し共通認識として把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のホーム会議を聞き、職員間での意見交換を十分に取り入れ、介護計画に取り入れている。 (本人の要望、家族の意向を踏まえ)	毎月の定例会議で、職員間で意見交換をしながら、本人・家族の希望を聞き、介護計画に取り入れている。出来るだけ身近な課題を反映できるように、現状に即した介護計画を作成している。変化があれば、協力医の意向も踏まえ、見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を細かく残し、ホーム会議での話し合い、実践、計画に反映できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われな、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に特変があると、その都度家族に意向を確認し、ホームで話し合い、要望に答えられるよう支援している		

岐阜県 グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事を通じ、民生委員、ボランティア、教育機関の方々と交流できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族等の要望に応じ、主治医その他の医療を受けられるよう支援している。	本人・家族の要望に応じ、かかりつけ医を協力医に変更している。毎週、協力医の往診があり、心配なことは、往診時や時間外でも、迅速に相談できる体制となっている。総合病院の受診には、職員が送迎同行し、適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師による、健康管理を始めとし、医療の活用についても随時アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	揖斐厚生病院の訪問看護ステーションと契約しているので情報収集が的確に行える		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族を始め、主治医との相談・検討を行うと共に、訪問看護師とも相談し、安心過ごせるよう対応をとっている。	事業所は、重度化や終末期ケアの対応や力量については十分に認識している。現時点では口から食べられなくなった際は、他施設へ移ってもらうよう依頼している。看取り指針や終末期対応は、入居時に説明し、本人と家族の同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを用意し確認できるようにしているが、定期的な訓練については現段階では計画しているが、未実施である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については、地域の方の参加をお願いし、避難訓練を実施している。これからも継続して実施していくと共に、あらゆる自然災害の訓練も実施していきたい。	年に4回、火災を中心にした訓練を行い、今年度からは、近隣住民参加の避難訓練を行っている。毎回、訓練の反省会を行い、広報の放送使用などについての提案と意見も出され、今後の訓練に活かす方向となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を守ること、言葉掛けなど、入居者に対してさりげないケアを行っている。通信に載せる際にも、家族の了承を得ている。又、面会簿については、個人カード(ファイル)を作るなどの対応をしている	人生の先輩として、利用者の尊厳を守るよう、居室への立ち入りや言葉使い、トイレのドア開閉等には、配慮を行っている。利用者の顔写真を載せたホーム便りは、家族だけの配布としており、プライバシーの保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思い、要望を出せるように普段からコミュニケーションを図り、その方にあった説明を行っている。言葉での意思表示が困難な方は表情をみながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れや集団の日課を強制せず、臨機応変に対応し、本人の希望やペースに沿った生活を送っていただけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には特に、お出かけの衣類を一緒に選んだり、散髪については、訴ったえがあった場合には、柔軟に対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者と食卓を囲んでいる。以前は自家菜園で収穫した野菜を使って調理したり、季節の料理を提供したりしている。また、手づくりのおやつを作ったり、(片付け含む)入居者の能力に応じてを分担し行っている。	ホームで収穫したり、近所から差し入れられた野菜を活用し、利用者の好みに配慮した献立にしている。利用者も、皮むきや下準備、調理を伝い、食事時には職員も同じテーブルにつき、楽しい会話をしながらゆっくり味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の状況に合わせた、おやつ、飲み物の提供はできていないが、皆に何を食いたい、飲みたいかを促し、意見があった物を出るだけ提供できるようにしている。アルコール類、喫煙については、現在の所希望される方はみられない。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。 (義歯を使用されている方は、毎晩義歯洗浄剤を使用し清潔保持に努めている。)		

岐阜県 グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄間隔をチェックし、さりげない声掛けを行い、トイレ誘導し排泄に心がけている。	本人の排泄チェック表に基づき、声がけやサインを見逃さないよう、さりげない誘導や見守りを行っている。本人の生活リズムの中で、排泄の自立を促すように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食生活のみならず、排泄チェック等を元に、身体を動かす機会を設けたり、マッサージ（腹部・腰部）をおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日・時間帯については決められているが、本人の身体状況に応じゆっくりと入浴できるよう支援している。	週に3回の入浴日としている。希望によっては毎日の入浴や、夜間の入浴にも応じる体制となっている。夏場は、希望者が多いシャワー浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中散歩など日中の過ごし方を工夫し、睡眠パターンを把握に努めている。また、状況に応じては、医師に相談するなどの対応をとっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書を元に確認している。情報をもっと知りたい時には、主治医、訪問看護師に聞いて理解したり、症状の変化等確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせ、役割を持っていただいている。又、生活歴からの情報を読み取り、何かを作ったりしている。気分転換に散歩に出掛け、買物をしたり、喫茶店に行ったりと取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人1人の状況のみで、天気の良い日は出来るだけ、地区内を散歩したり、公園や喫茶店に行ったりと、外出の機会を可能な限り取っている。	気候の良い日は、毎日ホーム周辺を散歩し、地域住民と挨拶を交わしている。季節ごとに、花見や紅葉狩り、ビアガーデンや鮎の料理店等へ出かけている。普段行けない、観光地などへのミニ旅行を計画的に行っている。	

岐阜県 グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	なかなか機会の設定が出来ていない。今後機会を設け支援したいとは思っているが、なかなかやれていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りについては、希望している方は継続的に行われている。電話をかけられる人がいないため、職員が変わって本人の気持ちを伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その都度季節にあった飾りつけを行っている。個人差はあるが、不快な光・音と感じられる入居者については、調整をしたり、場合によっては違う(ホームなど)場所へ行く等対応している。	広々としたリビングは、ウッドデッキに面した窓から自然光が差し込み、食卓テーブルには利用者の指定席として名前が貼られている。明るく、広く、清潔感のある共用空間であり、居室に続く廊下は、手すりが設置され、利用者の安全確保への配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う仲間と会話をされている入居者もあれば、畳、ソファで横になったりされる方等、ご自身の思い思いで過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	1人1人の能力に合わせ居室作りに工夫している。また、個々の能力に合わせて、家族に本人の使い慣れたものを持ってきて頂くよう働きかけている。	利用者の生活の継続を考慮し、自宅で使い慣れた家具や調度品を持ち込んでいる。本人が過ごしやすいくと、ベッドの位置などを家族と担当職員と一緒に工夫している。居室内を自分で掃除機をかける利用者もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人の持っている能力に合わせ、本人が分かる目印を作り、少しでも本人の意志で生活が営めるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172600591		
法人名	社会福祉法人 樹心会		
事業所名	グループホーム揖斐川げんき村(長良の家)		
所在地	岐阜県揖斐郡揖斐川町志津山378番地		
自己評価作成日	平成23年1月6日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票(長良の家)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム会議、職員会議、毎日の連絡会などで話し合い共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者が施設の中で過ごす事のないように積極的に買い物、散歩、町での催しなどには参加をしている。天気がいい日はできるだけ歩いて買い物へ行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方がヨガ、童謡の会、体操、児童合唱団など利用する時に利用者と楽しい時間を過ごせるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6ヶ月に1度開催している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	揖斐川町の地域ケア会議、社協の認知サポーター研修、包括ケア会議に参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置、定期的に会議を開き拘束の無いケアに努めているがやむ得ない場合はご家族等に説明ご理解した上で書面にサインを頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を作り会議を開きホーム事に異常が無いかに注意を払い防止に努めている。		

岐阜県 グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	研修等には参考ビデオを観たり、出来るだけ参加している。成年後見制度については必要な方がいましたら活用したいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に施設の見学その際書類などを参照して頂き十分な説明をしている。、体験入所を行ったり退所後も相談を受けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年3月に家族会を実施しておりアンケート調査も行っていて玄関にご意見箱を設置し面会に来られた時にもご意見やご要望を聞くように心がけています。良い改善に向けて努力しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろから職員が何でも言いやすい様な雰囲気作り心がけをしており連絡会、ホーム会議、職員会議に必ず出席され提案し反映させている。昼食時は3ホームを1ヶ月おきに回り必ず一緒に食べて話しやすい状況を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月希望を聞いたり行事などシフト調整をして状況の変化に対応し臨機応変に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来るだけ研修を受ける様にし報告書、会議等で発表させ職員一人一人の質の向上に心がけをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、岐阜県グループホーム協議会の西濃・本巣支部の支部長をやっており同業者との連携についても行われている。研修場を提供し2ヶ月に一度合同研修も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族の方にセンター方式をお渡し分かる範囲で情報をもらい本人からもお話を聞くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や面会に来られない方には、電話にて近状報告しながら何でも話しが出来る様に信頼関係を築き困っている場合はアドバイス等をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた段階でどのような支援を求めているか見極め他のサービス利用も考慮して、十分な理解をして頂けるよう対応している。調査検討委員会「判定会議」		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方に「必要されている」という事を感じてもらう為にも日常生活では家事、洗濯物、掃除等を一緒に関わりを持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と一緒に日帰り旅行、夏祭りなど行事を通して家族と一緒に本人を支援出来る様に努めている。お盆、年末、年始自宅に帰れる方は帰省して頂き家族関係を築いて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	身内、友人、隣人など馴染みのある方の面会を自由にし、家具、寝具、衣類、食器等身の回りの物を使用している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間に畳をひき一つのテーブルを囲み食事、ゲームなどをして会話する機会を作り自室にこもらない様に働きかけをし孤立しない様にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむなく退所され場合でもお見舞い、お葬式などに出席しお話を聞いたり、相談事にものっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人の思い、希望を日ごろの会話の中から聞きだしたり本人の意向をケアプランに立案し提供している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報をもらったりセンター方式を使い生活歴を知りその人らしい安心した生活が送れる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日観察、記録、報告を実施し職員全員が周知し、随時検討し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の状況を把握し意見を反映し、入居者の視点に立ち具体的な介護計画を立てている。家族の意見も聞き入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護日誌の記入の中で日々の気づきを把握して情報を共有、活用、実践見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の要望を聞き管理者もふまえて職員全員でサービスの提供をしている。		

岐阜県 グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の生活に変化や刺激を得られる様に地域、民生員、ボランティア、地域の中学生、高校生が参加出来る行事をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の定期の往診があり、緊急時にも直ぐに連絡がとれる様に連携が出来ており、家族の希望があればかかりつけ医を受ける事も出来る。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回の訪問看護に来て頂き日々の身体状況に応じた支援をして頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関、家族との話し合いをし情報交換をきちんと実施しサマリー等で把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者、ケアマネ、主治医、家族がカンファレンスを行い話し合い緊急時に対応する同意書にサインを貰い対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命法の研修に参加したり、マニュアルを用意して確認できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を設置、定期的に委員会を開き年に数回避難訓練を地域の方々に参加して頂き、入居者も交えて行っている。其のつど反省会をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手を尊厳した言葉を使い職員同士注意合っている。介護記録や個人情報に関する書類には丁寧に扱いプライバシーの確保については周知している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で自然に出て来た言葉や思いに耳を傾け職員は内容、方法を共に話し合い自己決定が出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は一人一人の思いを大切に希望を聞き入れ個々のペースに合わせたケアに心がけをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みを尊重し一緒に買い物等に出掛け好きな物は選択して頂いている。カットについては希望を聞いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に調理、盛り付け、配膳などわ行い目で楽しみ嗜好も満足して頂ける様に努力している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立で食材を購入配達される為バランスの良い食事を提供、摂取量を欠かさずチェック記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員毎食後、自立度に応じた声かけ、誘導、介助を行っている。		

岐阜県 グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排尿を把握しチェック表を確認の上行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食ごとに摂取量をチェックを実施、こまめな水分補給の確保し適正量を摂るようにしている。毎日の体操、散歩にて体を動かし、便秘症の方にはセンナ茶を飲んで頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決まっているが希望があればいつでも入れるようになっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日バイタルチェックをし健康管理、本人にも声かけをして体調を管理している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	2週間に一度薬情が届く為毎回確認、チェックを欠かさず変更があった場合は速やかに連絡、理解が出来る様に心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で一人一人何が出来るか出来ないか把握して一緒に出来る事を見つけ支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせて一人一人に希望を聞き行きたい所、食べたい物を連れていっている。		

岐阜県 グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買い物に出掛けた時には支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話への対応をしている。届いた郵便物はご本人に直接お渡ししている。手紙、葉書を代筆したり投函したりとする。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には色々と外出したスナップ写真や手作り作品等を貼り家庭的な居心地の良いように配慮をして窓には簾など季節によって工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いたり、テーブル席にて囲碁、トランプを楽しんだりと個々に楽しめる様になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた寝具、テレビ、家具などを持ってきてもらい自由に居室に配置されています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人一人の考え、習慣、想いを理解して出来る事、出来ない事を見極め持てる力を尊重し自信に繋げれる支援をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172600591		
法人名	社会福祉法人 樹心会		
事業所名	グループホーム揖斐川げんき村(揖斐の家)		
所在地	岐阜県揖斐郡揖斐川町志津山378番地		
自己評価作成日	平成23年1月6日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場 がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らして いる (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生き とした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出か けている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安 なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔 軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(揖斐の家)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議やホーム会議の折には、理念の理解と共有に向けて、確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動に参加し、地域の自治会や、老人会、地元の人々との交流に努めている。地元の方々には、避難訓練を見学して頂き、意見交流が出来た。又、夏祭りにも、参加下さって交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「介護予防拠点しずやま」の地域の方の利用や、バザーの出店等を通じて、親しみやすい状況作りに努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状を報告し、意見を伺っている。そこでの意見を元に、サービスの質の向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に一回管理者が包括ケア会議に出席し、職員会議等で報告し、質の向上に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を通して、職員が正しく理解し、身体拘束をしなくて良いケアを心掛けている。研修会への参加に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止への研修会への参加。内部委員会を設置し職員会議等では、職員への虐待啓発に努めている。		

岐阜県 グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	研修会等への参加に努めている。研修参加者は、職員会議やレポートにて、報告を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族へよく説明し、十分対応している。所長が対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の小さな思いや、要望をしっかりと受け止め、管理者と共に情報共有し、よりよい方向性を模索している。又、苦情解決の第三者委員の方による、個別への聞き取りを行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の小さな疑問や不安は、リーダーを通して、管理者に伝え、素早く対応する旨努めている。又、職員会議やホーム会議では、意見を提案し、運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者の状況の変化に対応し、安全性が確保できるように、その都度話し合いを行い、勤務の調整を行っている。職員個々の勤務状況を互いに尊重している。向上心を持ちつつ、チームワーク良く勤務出来るように、環境、条件の整備を行ってゆきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修への参加に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会を通じ、意見交換や、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時は、不安な気持ちがあるという事を十分に理解し、会話や支援の中で、気持ちを受け止めるように努めている。言動に注意を払い、安心感を持っていただけるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	連絡を蜜に行い、利用者本人の状況を説明すると共に、家族の思いを聞く事で、安心感を持っていただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	1週間程のお試し期間をもうけている。その間に、本人さんの居場所としてふさわしいかを、家族や職員で見極め、必要によって話し合いを設けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	世間話などの会話や、コミュニケーションを通して、良い関係作りが出来るように努めている。又、共同作業や、役割を通し、支えあう関係を蜜にする努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	細かな事でも家族の方に伝え、情報を共有する事で、共に支えあう関係作りが出来ている。又、面会時に本人と過ごす時間が出来るよう、配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの馴染みの人や場所などについて、本人の希望を聞き、関係が継続できるよう、支援に努めている。又、必要に応じて、家族の方や馴染みの方の協力をお願いする。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、利用者同士の関わりが増えるように、努めている。又、コミュニケーションの橋渡しの役割を職員が担っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了になっても時々、電話等で現状を知らせて頂いている。又、必要によって、相談等に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの人生の違い、性格の違いを理解し、個別に合った対応に努めている。日常の関わりの中で、本人の思いが把握できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などの聞き取りを行うと共に、日常のご本人の話や、家族の方の話から、以前の暮らしの様子を把握する様、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間での意見交換や、日々の記録、申し送り、ホーム会議を通して情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者や、ケアマネージャーが中心となり、日頃やホーム会議において、職員間で意見交換を行い、作成している。又、本人、家族の意向も取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録記入の大切さを職員間で認識して行っている。又、記録は重要な情報となり、共有することで、日々の介護に活かしている。三棟合同の連絡会を毎日実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や、家族の状況に応じて、職員間や家族の方と話し合い、その方に合ったサービスの提供を心掛けている。		

岐阜県 グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域交流の行事等を通じて、行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人の利用者の方は、入所前よりのかかりつけ医に、入所来受診してもらっている。本人の希望を大切にしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	揖斐病院の訪問看護を利用、協力を得ながら健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	職員が1～2日に1回必ず面会に行き、本人の状態を確認しつつ、コミュニケーションを図っている。又、家族や病院関係者とも、情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者や職員で話し合いを行い、しっかりした見極めをして、それを家族や医師に相談して行っている。家族・医師・職員でカンファレンスを行い状況および今後について検討する。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの導入もあり、全員ができるようにと、初期対応の訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年数回実施し、その都度反省会をしている。地域の方の協力も得て、実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重し、尊厳を傷つけない対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の気持ちに寄り添い、思いや希望を発言できるよう、配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別の希望にそった、過ごし方を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の身だしなみにも配慮しつつ、外出や行事には、おしゃれを楽しんでもらえるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好や季節感のある食事を、一緒に調理し、作る喜びをプラスしての食の提供を心がけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに加え、個別の量や形態にも配慮している。水分量は、食事や間食での摂取を確認し、確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、毎食後に見守りや声かけ等、個々に合わせて支援している。		

岐阜県 グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔を把握し、トイレ誘導によってトイレでの排泄に努めている。又、時間がかかっても、残存能力を活かして頂くよう、支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にて確認し、水分摂取、運動など促し、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望のかたちで入浴して頂いている。入浴順も毎回変えている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠等、一人ひとりの希望で実施している。日中の休息時間を大切にすると共に、昼夜逆転しないよう配慮している。夜間安眠の為、室温の調節など、環境整備に気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日常の薬は全職員が理解しており、風邪薬などの急な薬は、申し送りノート等を利用し徹底している。医師や訪問看護など、密に連絡をとり、服薬管理をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、楽しみを感じる事の出来る様、個々に合わせた支援をしている。食事作りなど、能力別にお手伝いをして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出かけられる様、機会を作り、楽しみの一つとなるよう、支援している。車で外食などに出かけたり、天気の良い日は戸外への散歩などを実施している。		

岐阜県 グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方にも理解をして頂き、その方の能力に合わせて、お金を所持したり、使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせ、電話や手紙のやり取りが出来る様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間のソファが、共用の居場所になっている。季節感ある花や飾りは、入居者と共に作成するよう心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	十分なスペースがあり、好きな場所で過ごせた利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方にあつた物の配置をし、なじみの物を置くことで、その方が過ごしやすい居室となるよう工夫している。自己決定の出来る方は、本人の好みにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ内にも手すりを設置し、本人の能力で排泄動作の出来る様にしている。歩行時に、転倒の危険が無いよう、見守りや安全の確保に配慮している。		